



Title	井戸さんはサポートハウスの応援団長
Author(s)	山田, 尚実
Citation	井戸武實の歩みと追悼集. 2025, p. 39-40
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/100737">https://hdl.handle.net/11094/100737</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 井戸さんはサポーティブハウスの応援団長

山田 尚実

NPO 法人サポーティブハウス連絡協議会 代表理事  
サポーティブハウス「メゾンドヴューコスモ」オーナー

あいりん地域における生活困窮者の支援付き共同住宅サポーティブハウス「メゾンドヴューコスモ」のオーナーで、NPO サポーティブハウス連絡協議会の代表理事を務めております山田尚実と申します。

平成 26 年 12 月に開催されたストップ結核パートナーシップ関西第 2 回ワークショップにおいて、パネルディスカッション「あいりん地域と大阪の結核対策と患者に対する医療」のパネラーとしても参加させていただきました。

サポーティブハウスではそのオープン時より入居者に対する個別の声がけて結核の誕生月健診を実現し、あいりん地域の結核患者の減少に一定の役割を果たしてきたと考えています。DOTS の入居者支援も保健師さんや看護師さん HESO の皆さんと協力して行ってきました。

井戸さんは学生のフィールドワークの引率において、メゾンドヴューコスモを行程に組み込んで、学生たちに生の現場を体感してもらおうとされていました。「オーナー！ 井戸さんからお電話です。」というスタッフの声に電話に出ると、いつもの明るい愛嬌たっぷりの声で「×月×日コスモに学生 10 名連れて行くからよろしくね。」と既に決定した事項のごとくお話になりました。井戸さんに言われたら断りようがありません。二つ返事で「いいですよ」と答えると、当日はフィールドワーク参加者全員の名刺を携えてお越しになられました。私からは、あいりん地域とサポーティブハウスの成り立ちからこの地域の現在の状況、そしてサポーティブハウス内の結核患者の生活や経過、DOTS の様子、保健師さんや病院との連携についてなどをお話しいたしました。

平成 24 年 10 月には、WHO の結核対策のトップも務められた古知新さんをコスモにお連れになり、古知さんにはサポーティブハウスの結核対応について現場での様子を良い点、問題点など実例を挙げてご説明させていただきました。

井戸さんはサポーティブハウスの活動の絶対的な応援団という風にいつも心から拍手を送って下さっていました。井戸さんの言葉にどれだけ励まされたことでしょうか……

感謝と共に心よりご冥福をお祈り申し上げます。



メゾンドヴューコスモ内談話室にて左から井戸さん、山田尚実、古知新医師※（2012年10月）  
(写真提供：山田尚実)

※古知新医師：元WHO本部結核・エイズ・マラリア対策部

直接監視下短期化学療法（DOTS）を推進したことで知られている。

古知新医師の当時の著書：

古知 新、下内 昭、高鳥毛 敏雄. [鼎談] 大阪市の「西成特区構想」とわが国の結核対策の課題. 公衆衛生. 2013;77(2). 136-142.



メゾンドヴューコスモ内談話室にて井戸さんとフィールドワークの学生たちと山田尚実（前列右から3人目）（2012年12月）（写真提供：山田尚実）